

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">~2022</div> <h1 style="margin: 0; padding-left: 10px;">高齢者福祉論研究</h1>	単位数	履修方法	配当学年
	4単位	R	1・2年
	担当教員	石附 敬	

■授業のテーマ

老いの諸相と高齢者支援の課題

■授業の目的

- 1) 社会老年学 (social gerontology) を中心とした老いに関する諸理論、超高齢社会の課題について学ぶこと。
- 2) 高齢者の生活を支える地域包括ケアシステムの理論と課題について学ぶこと。

■授業の到達目標

- 1) 老いに関する諸理論について理解し、身近な事例を題材に検討することができる。
- 2) 超高齢社会の課題について、考えを述べることができる。
- 3) 地域包括ケアシステムの理論と課題について述べるができる。

■授業の概要

日本の老年人口比率は28%を超え、4人に1人が高齢者となり、さらに男女ともに多くの人が人生80年以上を享受できる時代となった。一方で、家族機能の脆弱化、高齢者のみ世帯の増加など、高齢者を取り巻く環境は厳しさを増している。今後、人々が安心して高齢期を迎えることができるために、何が必要なのか？

本講義では、①まず初めに、社会老年学を中心とした老いに関する諸理論の学びを通じて、幸せに老いるためには何が重要なのかについて、身近な事例も活用して考えていく。②次に、人々がそれぞれ相応しい場所で老いていく (aging in place) ことを支える、地域包括ケアシステムの理論と現状について学ぶ。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	老年学とは	老年学の定義、テキストの構成	テキスト1) 序章を読んで、老年学はどのような学問かまとめてください。
2	老年学の研究方法	実証研究のプロセス、文献レビュー、量的・質的研究	テキスト1) 第1章を読んで、老年学の研究方法についてまとめてください。
3	老いと社会	老年社会学の理論、高齢期の社会関係、エイジズム、社会参加	テキスト1) 第4章を読んで、老年社会学の理論と、高齢期の社会関係についてまとめてください。
4	老いと健康	老化と寿命、老化にともなう身体の変化、高齢期の傷病	テキスト1) 第2章を読んで、老化にともなう身体の変化、高齢期の傷病の特徴についてまとめてください。
5	老いと心理	生涯発達、感覚、記憶、孤独、コミュニケーション	テキスト1) 第3章を読んで、老化と障害発達、感情と孤独、についてまとめてください。
6	高齢者と家族への支援、死生学	高齢者と家族を支える制度、福祉の実践方法、死生学	テキスト1) 第5、6章を読んで、高齢者と家族を支える制度と支援方法についてまとめてください。
7	事例検討①	オーラルヒストリー	あなたが幸福だと思う身近な高齢者に、幼いころから今までの人生について話を聴いてみてください。そして、老いの諸理論を用いて、その方がなぜ幸福なのか考察してください。身近に対象者がいない場合は、高齢者の人生が書かれた書籍を読んで考察してください。
8	事例検討②	オーラルヒストリー	つづき

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
9	地域包括ケアシステムの背景	日本の現状と背景	テキスト2) 第1章を読んでください。
10	地域包括ケアをめぐる議論①	integrated care、定義	テキスト2) 第2章1節を読んでください。
11	地域包括ケアをめぐる議論②	2006年モデル、2012年モデル	テキスト2) 第2章2節を読んでください。日本における地域包括ケアシステムの変遷についてまとめてください。
12	地域包括ケアシステム構築の方法①	諸外国の例	テキスト2) 第3章1節を読んでください。
13	地域包括ケアシステム構築の方法②	日本の例	テキスト2) 第3章2節を読んでください。
14	地域包括ケアシステムの課題①	認知症高齢者の在宅支援	テキスト2) 第4章1節を読んでください。
15	地域包括ケアシステムの課題②	ケアマネジメント、評価体制	テキスト2) 第4章2～3節を読んでください。

■レポート課題

課題1	あなたが幸福だと思う身近な高齢者の人生を事例として、その方がなぜ幸せな老後を過ごしているのか、老いの諸理論を用いて考察してください。
課題2	地域包括ケアシステムとは何か。そして、日本に導入された背景と、これまでの変遷について述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題1 アドバイス
 高齢者（できれば後期高齢者が望ましい）に、その方の幼少期から高齢期までの人生を何回かに分けて（1回当たり1時間以内）聴いてみてください。ポイントはあなたの質問に対して、自由に語っていただくことです。聴きとった内容をもとに、その方の人生をオーラルヒストリーとしてまとめてください（これは提出の必要はありません）。これを事例として、レポートではオーラルヒストリーを簡潔にまとめて、老いの諸理論を活用して考察を述べてください。文中では個人が特定できないよう、仮名やアルファベット表記などで匿名としてください。該当する協力者が得られない場合は、高齢者の人生について書かれた書籍を事例として使用してください。

課題2 アドバイス
 テキスト2)を丁寧に読んで、要点をまとめてください。また、厚生労働省のHPや参考文献で提示した特集論文なども参考にすると良いでしょう。

■評価の方法・基準

課題レポート60%（各30%）、試験レポート40%

■参考文献（*印＝大学から送付される必読図書）

- *1) 杉澤秀博、長田久雄、渡辺修一郎、中谷陽明編著『老年学を学ぶ 高齢社会の学際的研究』桜美林大学出版会、2021年
- *2) 筒井孝子著『地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略』中央法規、2014年
- 3) Robert C. Atcheley & Amanda S. Barusch (2004) Social Forces and Aging: An Introduction to Social Gerontology 10th ed. Thomson Learning. (= 2005, 宮内康二編訳『ジェロントロジー～加齢の力学～』きんざい.)
- 4) 「特集 地域包括ケアシステムの構築と深化：課題と展望」『老年社会科学』39巻4号、p.415-459、日本老年社会科学会、2017年